

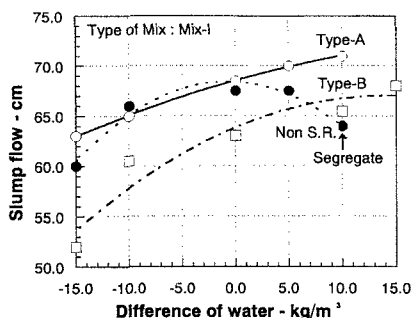


図2 水分変動がスランプフローに及ぼす影響

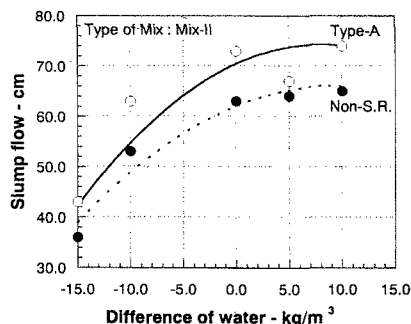


図3 水分変動がスランプフローに及ぼす影響

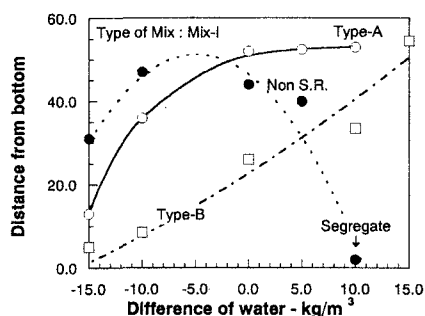


図4 水分変動が充填性に及ぼす影響

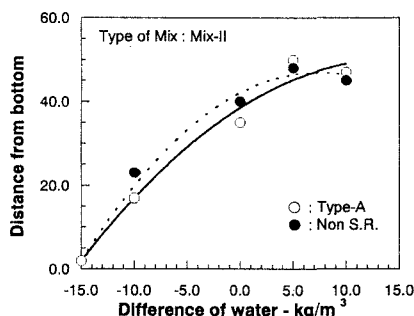


図5 水分変動が充填性に及ぼす影響

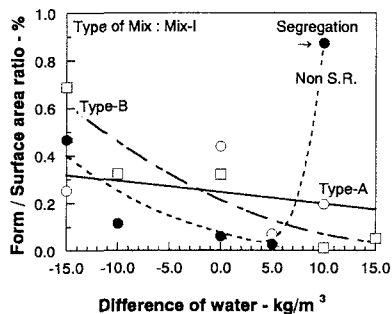


図6 水分変動が表面美観に及ぼす影響

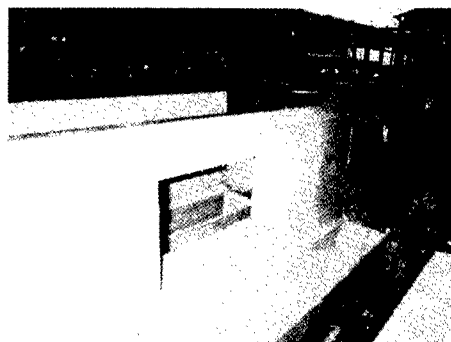


写真1 二次製品への適用

写真1は、粉体量の少ない配合で TYPE-A を用いた配合を用い、二次製品を製造した場合の製品の様子である。無振動で打設したにもかかわらず、欠け、まめ板およびペーストもれなどの不良箇所は認められず、型枠の隅々にまでコンクリートが充填されており、表面の仕上がりも満足できる範囲であることが分かった。

4. まとめ

粉体量が比較的少ない配合は、粉体量が比較的多い配合に比べ、水分変動の影響を受けにくいことが分かった。また、粉体量が比較的少ない配合の中でも、増粘効果の小さい分離低減剤を用いた方が、水分変動に対して安定した高流動コンクリートの製造が可能であり、脱型後の表面の仕上がりも美しいことが分かった。また、二次製品の製造を行った場合も、脱型後の表面の仕上がりは美しく表面補修の作業の必要の少ない製品が製造できることが分かった。